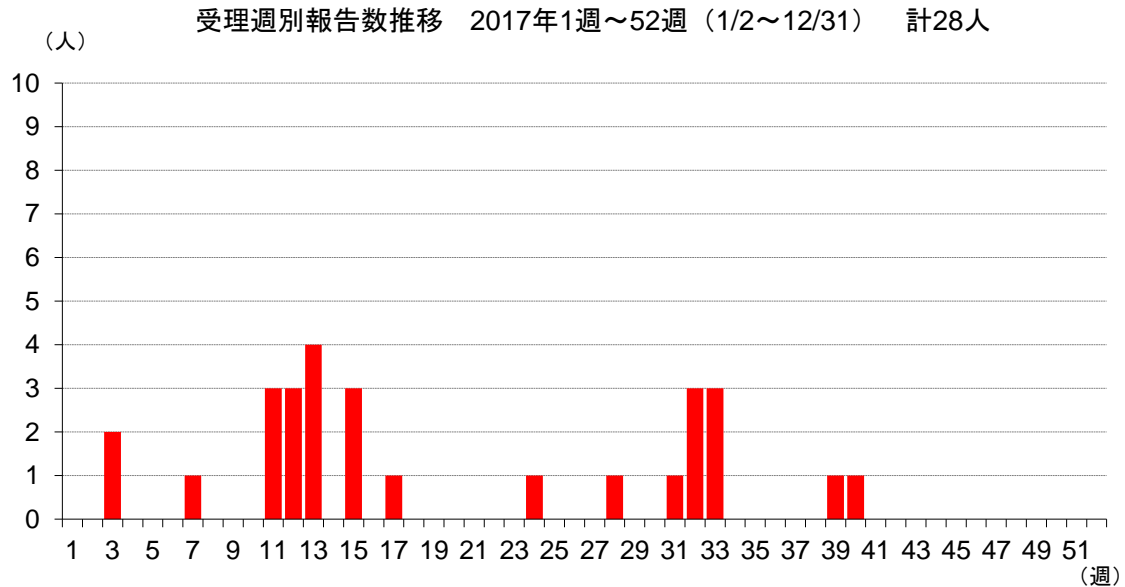


都内における麻しんの発生状況（2017年第1週から52週）

東京都健康安全研究センター

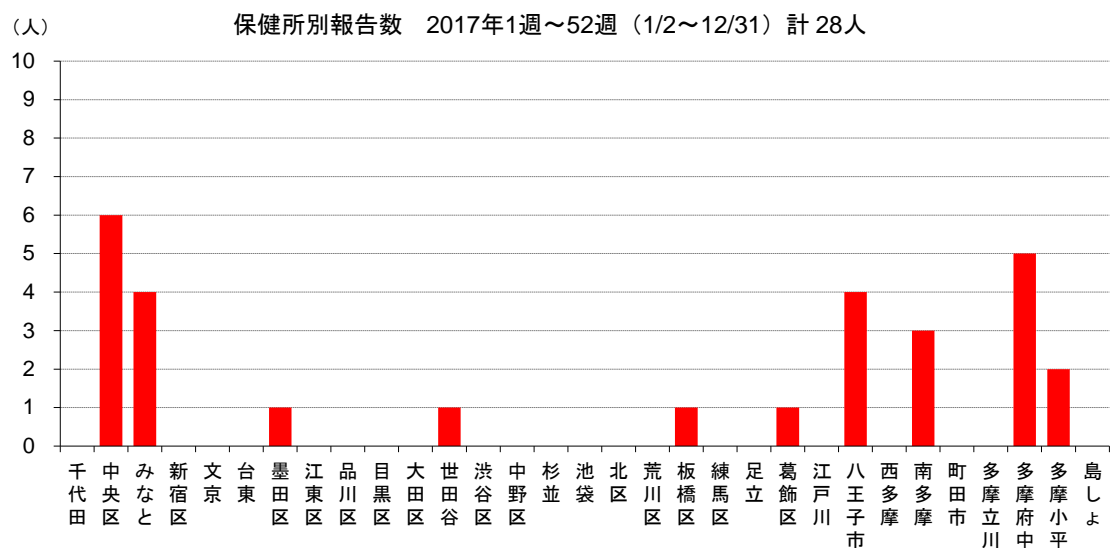
1. 患者報告数の推移

2017年の年間累計報告数は28人であった。



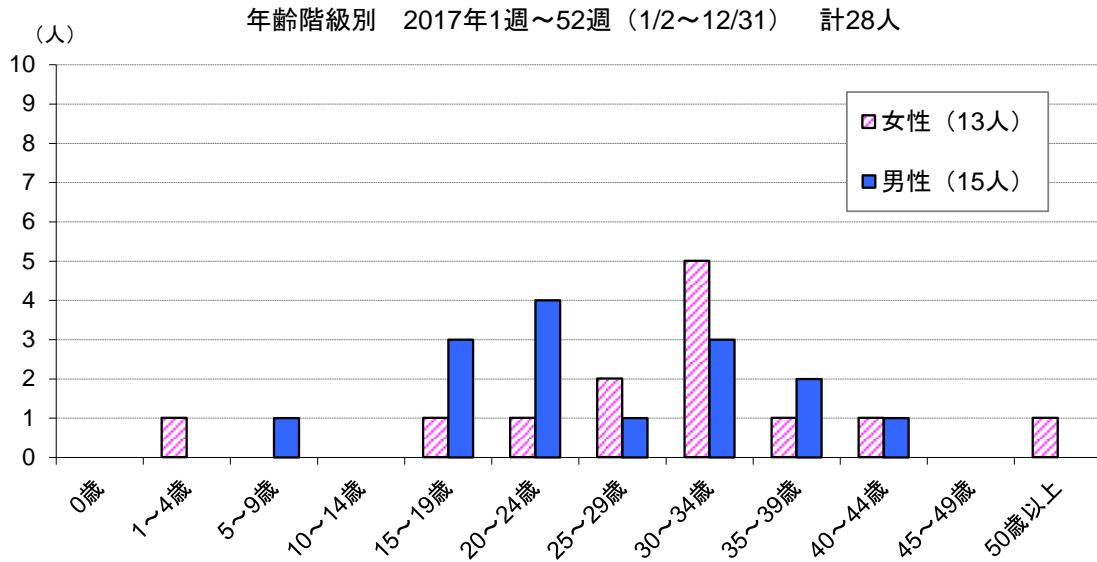
2. 保健所別報告数

31保健所中10保健所から報告があり、報告数は中央区保健所6名、多摩府中保健所5名、みなと保健所、八王子市保健所各4名、南多摩保健所3名、多摩小平保健所2名、墨田区保健所、世田谷区保健所、板橋区保健所、葛飾区保健所各1名だった。



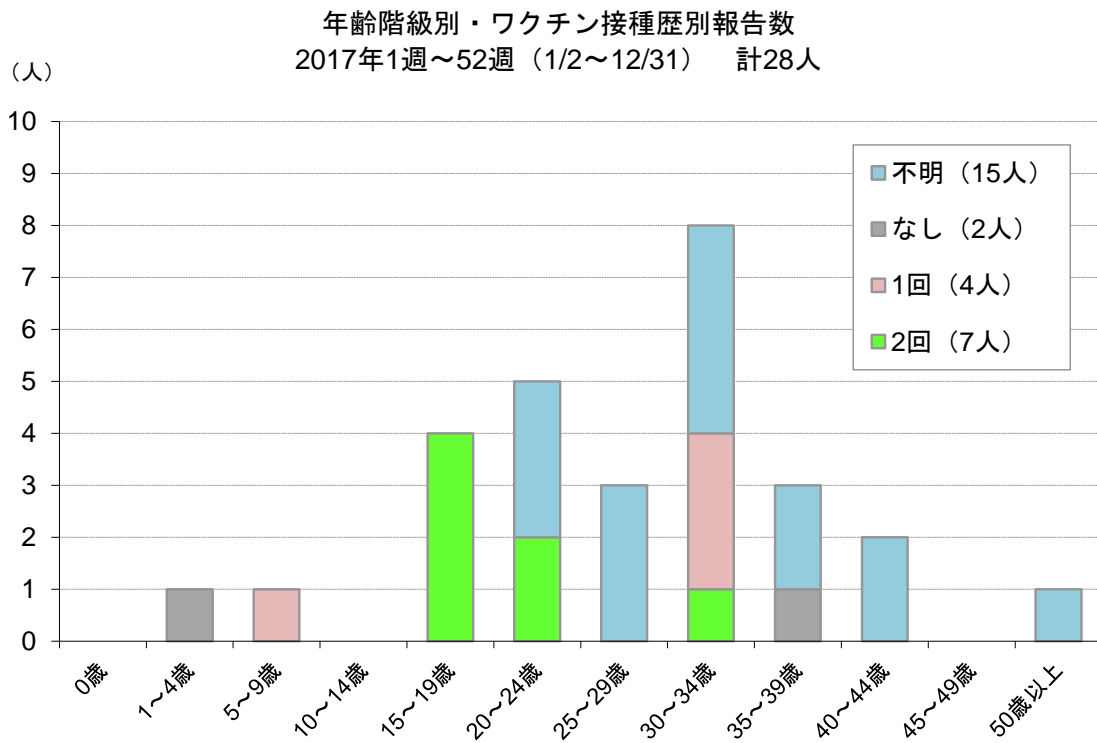
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 15 人、女性 13 人で男性の方が多かった。年齢階級別・性別で見ると、報告数が多いのは 30～34 歳の女性（5 名）、20～24 歳の男性（4 名）であった。



4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

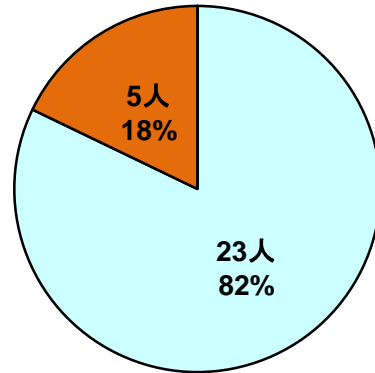
ワクチン接種歴別で見ると、2回接種が 7 人、1回接種が 4 人、接種なしが 2 人、不明が 15 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 61%であった。



5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が23人（82%）、「国外」が5人（18%）であった。昨年よりも推定感染地「国外」は32%減少した。（推定感染地「国内」は32%増加した。）

推定感染地域
2017年1週～52週（1/2～12/31）
計 28人

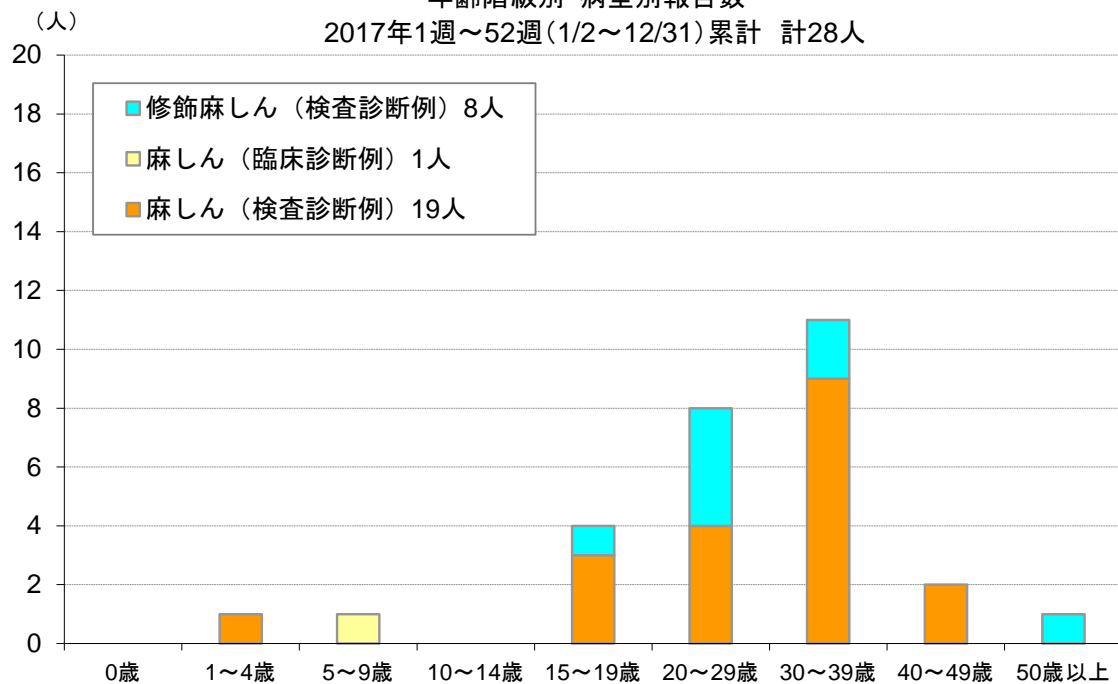


□国内 □国外 ■国内又は国外

6. 年齢階級別・病型別報告数

病型別でみると、麻しん（検査診断例）19人、麻しん（臨床診断例）1人、修飾麻しん（検査診断例）8人と、麻しん（検査診断例）が最も多かった。

年齢階級別・病型別報告数
2017年1週～52週（1/2～12/31）累計 計28人



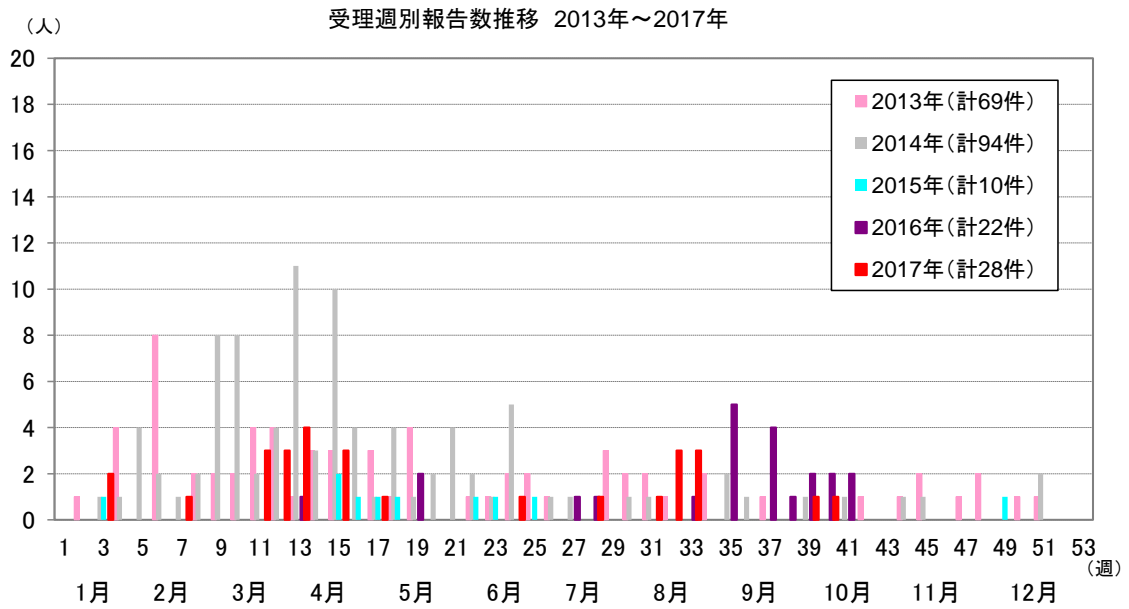
7. 事例一覧

No	保健所 受理週	性別	年齢	遺伝子型	推定感染地域	予防接種歴
1	3週	女	32歳	D8	国内	1回
2	3週	女	24歳	H1	国外(ミャンマー)	不明
3	7週	男	8歳	不明	国内	1回
4	11週	男	30歳	D8	国外(インドネシア)	不明
5	11週	男	40歳	D8	国外(タイ)	不明
6	11週	女	19歳	D8	国内	2回
7	12週	男	21歳	D8	国内	不明
8	12週	男	18歳	D8	国内	2回
9	12週	男	18歳	D8	国内	2回
10	13週	女	33歳	D8	国内	2回
11	13週	男	38歳	D8	国内	不明
12	13週	男	21歳	D8	国内	2回
13	13週	男	34歳	D8	国内	1回
14	15週	男	19歳	D8	国内	2回
15	15週	男	20歳	D8	国内	不明
16	15週	男	21歳	D8	国内	2回
17	17週	女	40歳	D8	国内	不明
18	24週	女	38歳	不明	国内	不明
19	28週	女	74歳	不明	国内	不明
20	31週	女	33歳	D8	国外(インドネシア)	不明
21	32週	女	33歳	D8	国内	不明
22	32週	男	25歳	D8	国内	不明
23	32週	女	30歳	D8	国内	1回
24	33週	女	25歳	D8	国内	不明
25	33週	男	34歳	D8	国内	不明
26	33週	女	26歳	D8	国内	不明
27	39週	女	2歳	D8	国外(タイ)	無
28	40週	男	37歳	D8	国内	無

<参考>

麻しん患者報告数の推移（2013年～2017年）

過去5年間でみると、2017年は3番目に少ない報告数となった。

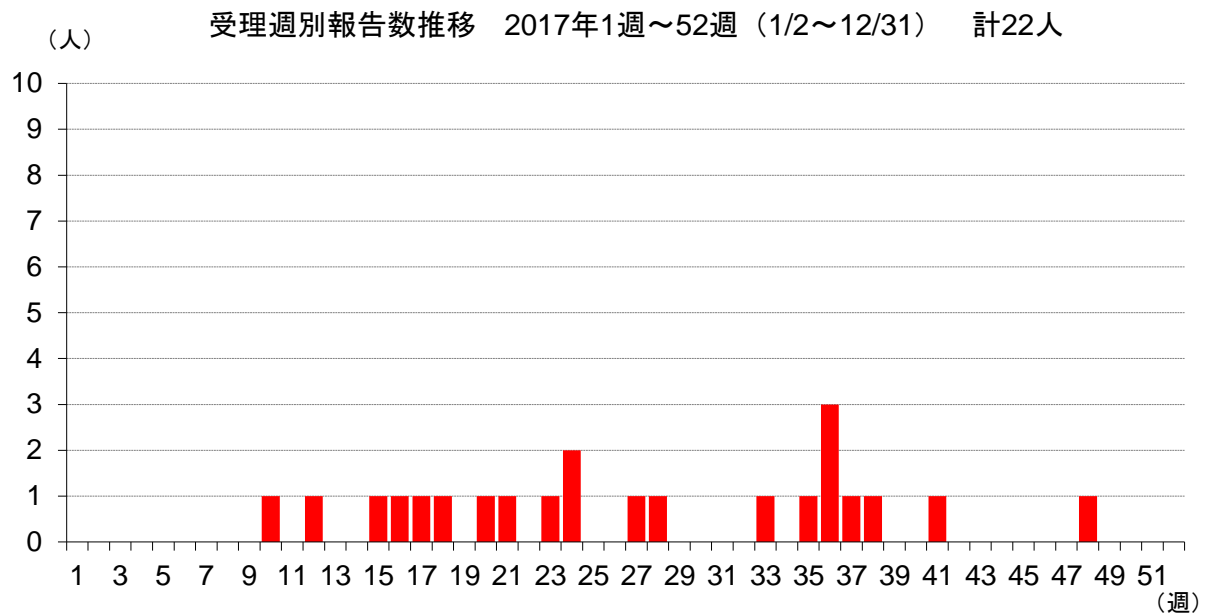


都内における風しんの発生状況（2017年第1週から52週）

東京都健康安全研究センター

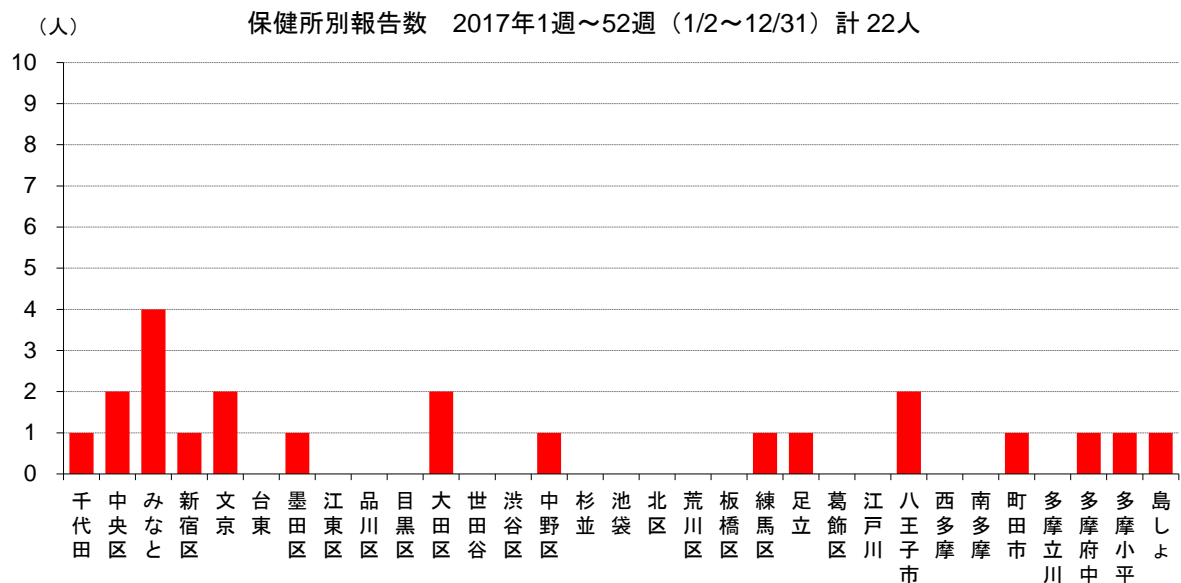
1. 患者報告数の推移

2017年の年間累計報告数は22人であった。特にピークはなく、0～3人の報告が散発的に続いている。



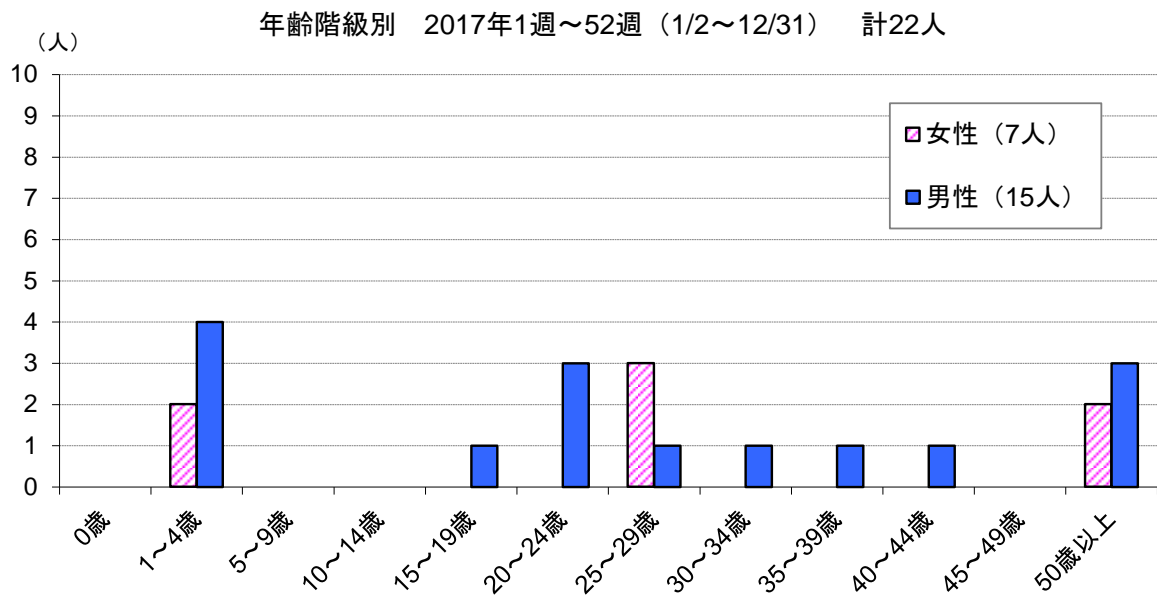
2. 保健所別報告数

31保健所中 15保健所から1人から4人の報告があった。



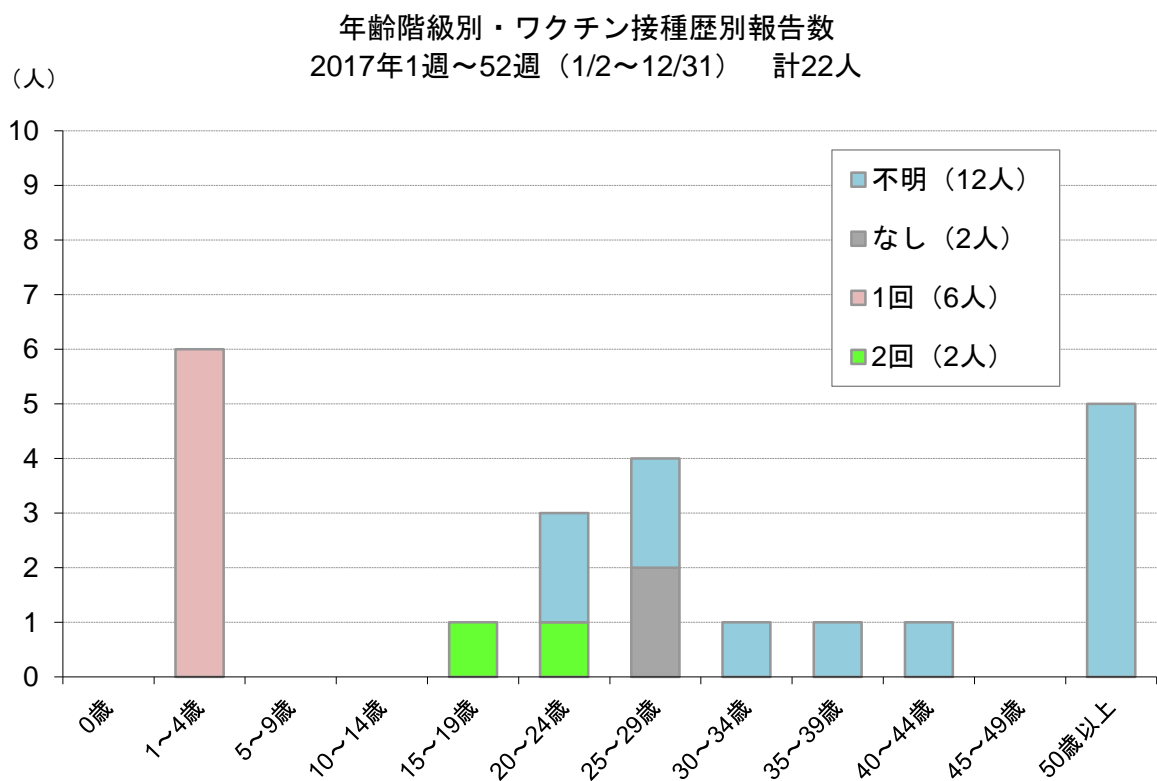
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 15 人、女性 7 人と男性の方が多かった。年齢階級別・性別でみると、報告数が多いのは 1～4 歳の男性（4 人）、20～24 歳の男性、25～29 歳の女性、50 歳以上の男性（各 3 人）であった。



4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

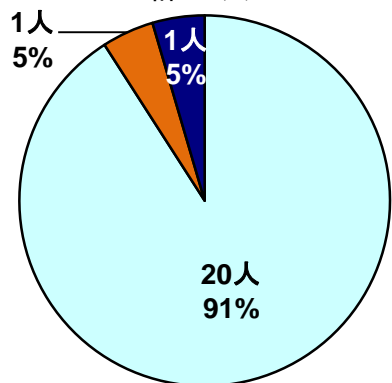
報告された風しん患者をワクチン接種歴別でみると、2回接種が 2 人、1回接種が 6 人、接種なしが 2 人、不明が 12 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 64%であった。20 歳以上では接種不明が多かった。



5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が20人、「国外」と「国内又は国外」がそれぞれ1人であった。

推定感染地域
2017年1週～52週（1/2～12/31）
計 22人

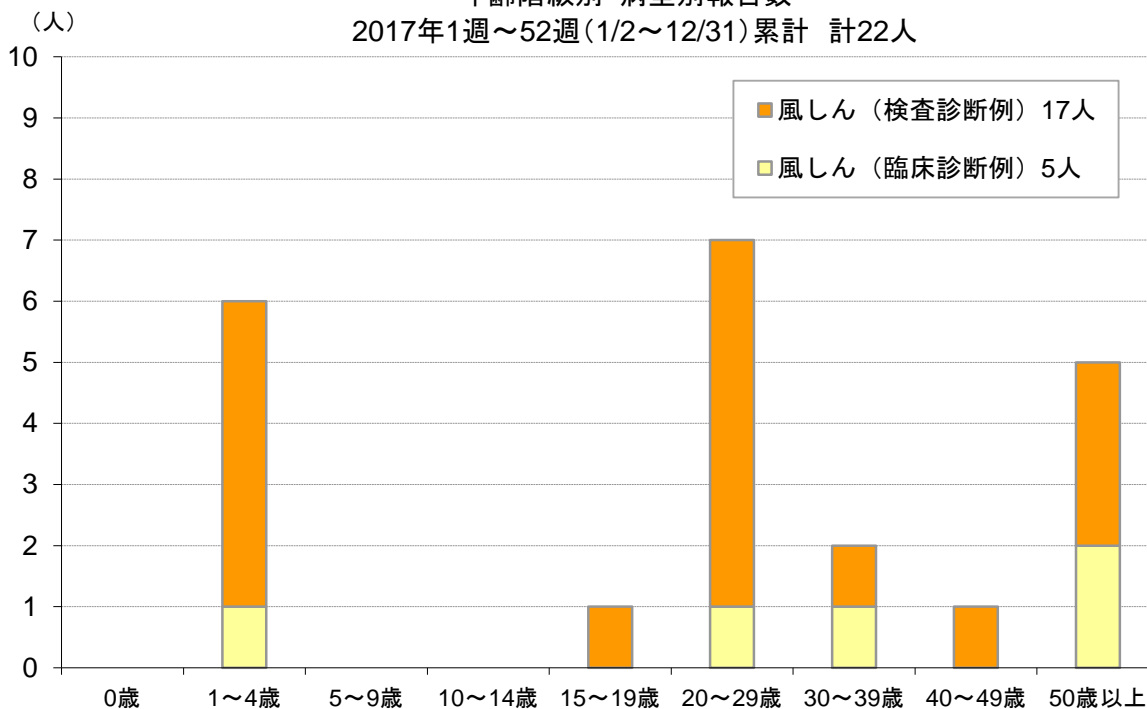


□国内 ■国外 ■国内又は国外

6. 年齢階級別・病型別報告数

病型別で見ると、検査診断例が17人、臨床診断例が5人と検査診断例の方が多かった。

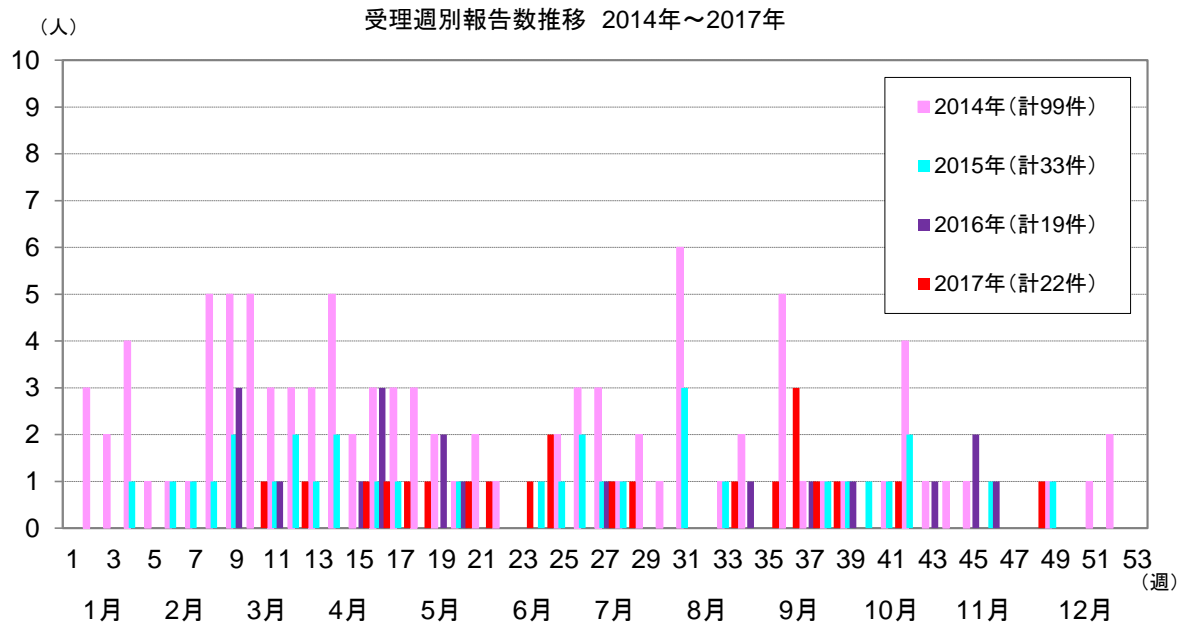
年齢階級別・病型別報告数
2017年1週～52週（1/2～12/31）累計 計22人



<参考>

1. 風しん患者報告数の推移（2014年～2017年）

過去5年間でみると、大流行した2013年以降は減少傾向にある。



2. 先天性風しん症候群（CRS）患者報告数

2015年以降、全国的に CRS 患者の報告はない。

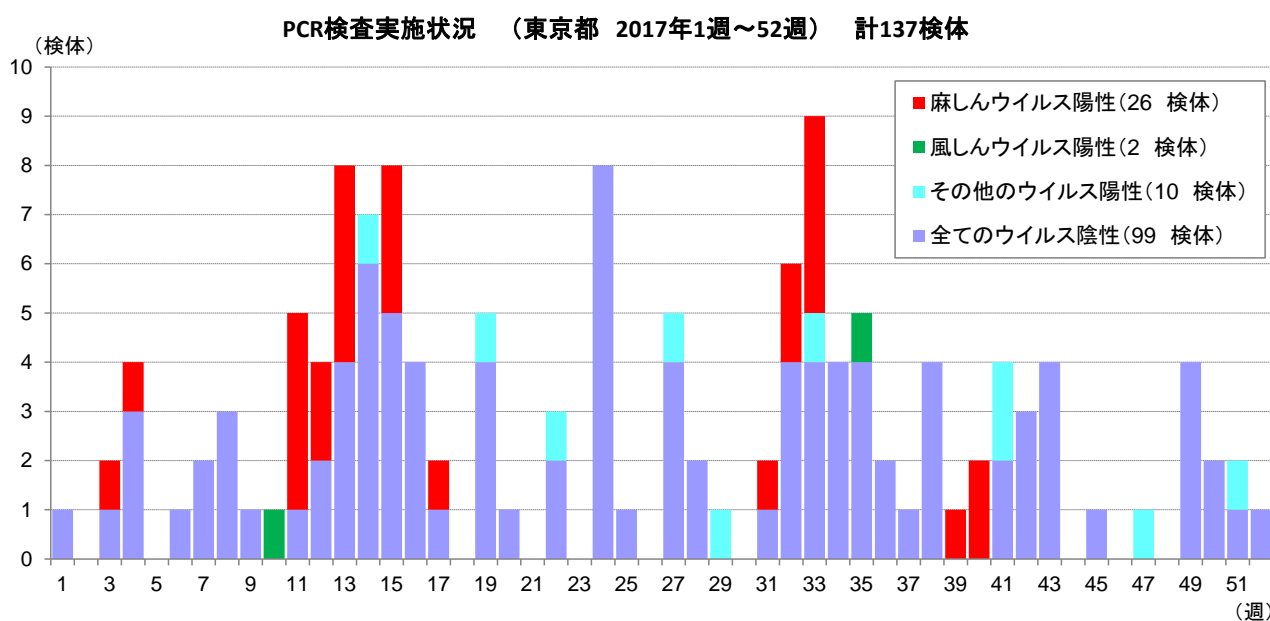
東京都健康安全研究センターにおけるPCR検査*実施状況 (2017年第1週から52週)

東京都健康安全研究センター

東京都では麻しんと診断された患者で協力が得られた場合、当センターに検体を搬入し、麻しんウイルスPCR検査を実施している。陰性だった場合は、風しん及びパルボウイルスB19型のPCR検査を実施し、2歳以下では更にヒトヘルペスウイルスPCR検査も実施することとしている。

2017年1週から52週までに、麻しんと診断された患者125人137検体が当センターに搬入され、PCR検査が実施された。結果は、麻しんウイルス陽性が26検体、風しんウイルス陽性が2検体、その他のウイルス陽性（パルボウイルスB19及びヒトヘルペスウイルス6型）が10検体、陰性が99検体だった。

※PCR検査とは、特殊な酵素を用いて特定の遺伝子配列を増幅することにより標的となる病原体を検出する方法である。検出感度も高く、検出する遺伝子配列を変える事により様々な検査に対応することが出来るため、現在では多くのウイルスの検査に応用されている。



<遺伝子型>

麻しんウイルス (26 検体)

D8 型 : 25 検体 H1 型 : 1 検体

その他のウイルス (10 検体)

ヒトヘルペスウイルス 6 型 : 8 検体
パルボウイルス B19 : 2 検体

※風しんウイルスは未実施